



学校だより “ 行きたい学校・帰りたい家・住みたい町 ”

上小岩



令和7年 2月28日

NO.11

江戸川区立上小岩小学校

校長 宮本 知司



春光日々新（春光、日々新たなり）

校長 宮本 知司

校長室の今年のカレンダーを一枚めくり、この禪の言葉と出会いました。「春の景色は日を追って変化し、毎日毎日が新しい」という意味です。少し前まで「寒い寒い」と言っていたのですが、季節は着実に本格的な春へと歩みを進めています。こうして自然が日々変化していくように、私たちも一日一日を“新鮮な気持ち”で過ごしていきたいと思えます。

さて、江戸川区教育委員会の指定を受けた「教育課題実践推進校」としての授業公開と説明会でしたが、おかげさまで区内外から150名にも迫る多くの参会者を迎え、無事に盛大に開催することができました。真剣に、そして生き生きと学習に向かう子供たちの姿を通し、参会者も私たちも多くのことを学ぶことができました。いつも以上に一生懸命考え、張り切って学習に向かってくれた子供たちからは、私たち教職員を応援する温かな気持ちも感じました。子供たちの頑張りへの、日々のご家庭での後押しにも感謝いたします。

季節は春ですが、明後日3月2日より、5年生は楽しみな「ウィンタースクール」で新潟県南魚沼へと向かいます。これまでの5年生と同様に、スキーを始めとする楽しい思い出をたくさん作り、最高学年に向けた『学年の絆』も一層強くする3日間となることでしょう。



高学年の宿泊行事にはいくつものねらいがありますが、私が大事にしている一つに「人は自分とは違うことを知る」ということがあります。子供たちは、普段の学校生活の中では気付かない友達のよさを知ったり、逆に我が家のよさに気付いたりもします。私たちは物事を考える時、どうしても「自分のものさし」で見、判断をしてしまいがちですが、宿泊行事はそんな「自分のものさしの幅」を広げるチャンスだとも思うのです。

宿泊ではないのですが、私には海外の方との関わりを通し「自分のものさしが当たり前でない」ということに気付いた強烈な思い出があります。文京区の都立高校柔道部に所属していた私は、地下鉄で2駅先にある“柔道の聖地 講道館”の大道場で、合同稽古に参加することが幾度もありました。日本各地、そして海外からも講道館での稽古に参加する方は多く、そこで私は人種の多様さを思い知りました。柔道着越しにも筋肉の厚みや骨の太さが日本人とは大きく異なる姿を見て、また、組み合わせれば長いリーチや足を使って自在に出される技に驚き、それまで見知っていた「当たり前」とはまったく違う体のさばきに翻弄され…。「世界にはすごい人がたくさんいるんだ」と実感し、「体格も運動能力も違う人たちと勝負するには、どうしたらいいのだろう」ということを真剣に考えたりもしました。



『かみっ子トーク』と称し、本校では学習の中で「自分の考えをもって友達と話し合う場」を大切にしています。「どちらの考え方がよいか」と比べたり、よりよい考えにまとめていったりすることもあります。それよりも互いに「自分とは違う見方や考え方」の面白さに気付くことを大切にしています。「人は自分とは違う」ということを知った子は、人のことを受け入れ、人に優しくもなれます。

おかげさまで子供たちは健やかな成長を続け、卒業・修了へと向かっています。結びの3月も、気を緩めることなくしっかりと進んでまいりたいと思えます。

今年度も本校へのお力添えと、かみっ子への温かなお見守りに感謝いたします。

◀3月の全校道徳▶

『感謝』

家族など、日頃世話になって
いる人々に感謝する。